

## 「光の道」構想に関する意見

意見提出元	日本オフィス・システム株式会社
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>インターネットブロードバンドのエリアカバーは、世界的に見ても日本は先進的であり、むしろ、利用者の増大を図るため、電子政府・教育・医療等の分野でICT利活用の促進を進めることがより重要であると考えます。</p> <p>また、光網よりも携帯電話等の無線の超高速ブロードバンドインフラの整備を図るほうがより現実的と考えます。</p> <p>インフラ上でICTサービスを提供し、ビジネスを展開する企業・事業者に活力があれば、新しいサービスやアイデアが創出されるのではないかと考えます。</p> <p>ICTビジネス全体に活気を与えるような国による支援策を期待する。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適切と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>NTTの在り方については、通信という公共性の高いインフラを「料金」だけの視点で過度の競争にゆだねることは、サービスの安定・安全供給維持から極めて疑問です。</p> <p>アメリカでは90年代にAT&amp;Tの分割や電力民営化等の自由競争を誘導したが、事業会社が安定せず、融合離散を繰り返している。</p> <p>国として、利用者の利便性・安全性・国際競争力等、多様な視点から検討いただきたい。</p> <p>また、通信事業間のみでの議論で終始することなく、インフラ上でサービスする企業にとっても有益でICT業界の活性化を図れる議論を期待する。</p>